

大津市「バッタ」調査をふり返って

南 尊演

調査員の皆さん、どんなバッタに出会われたでしょうか。自宅周辺や公園、通り慣れた道端などいろいろなバッタを見つけられたのではありませんか。いつもより意識してバッタを探していただいて、身近なところで意外な発見されたかもしれませんね。

私は平成 29 年度市民調査バッタの勉強会の講師役として市から依頼を受けましたが、実は過去にも同様の調査を引き受けました(平成 23 年度セミ、平成 24 年度アカトンボ)。その時、昆虫の種類の判別に調査員さんがご苦労されたという反省から、今回は野外で生きた昆虫を手にしなが、種類の見分け方を会得していただきたいと思いました。そこで、調査員さん向けの現地実習を市の担当者をお願いしたところ、市役所裏山の空き地で2回実施していただくことになりました(7月23日勉強会当日夕方、8月26日午後)。

その空き地には、草のよく茂った場所、ほとんど草のない裸地などの異なった環境がありました。そして、クルマバッタはおもに草地に、イボバッタは裸地に、クルマバッタモドキやショウリョウバッタはその境目を中心というように、種類によって生息環境がある程度異なることに触れました。また、たとえば大型種のトノサマバッタ、クルマバッタとクルマバッタモドキの3種類は、遠目には似ているが、捕らえて後翅を広げると種類ごとの違いがよくわかることを体験していただき、正確な種類の判定には捕獲が必要ながあると申しました。なお、本冊3ページ下の写真はこの時のクルマバッタです(撮影は市役所の平出さん)。この実習では小さなお子さんからご高齢の方も熱心にバッタを追いかけて、おもな種類の区別点を学んでくださいました。

ところで、ひとくちに「バッタ」と言っても種類が非常に多いので、調査対象のバッタの種類をどの範囲とするかについて、事前に市の担当者の方々と相談させていただきました。トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタなど知名度のある種類はもちろんですが、イナゴ類(ツチイナゴ、コバネイナゴなど)もバッタ類に非常に近い仲間なので、これらを含め 25 種類を調査対象としました(9ページの表参照)。なお、これらの他にもヒシバッタ類(成虫で1cm前後)、ノミバッタ類(同じく5mm前後)がいるのですが、小さくて種類の判別がかなり難しいため、調査対象から外しました。(分類学上のバッタ目^{ちく}と呼ばれるグループには、さらにコオロギ類、キリギリス類、カマドウマ類などの触角が非常に細長いグループが含まれますが、これらも対象外としました。)

調査期間は7月23日から9月30日でした。11月に市から私に送られてきた調査結果の集計表の中に、イナゴモドキ、ハネナガフキバッタが平地の市街地から報告されていました。これら2種類の生息地は冷涼な山地であり、過去の市内での記録は比良山系の中腹以上にほぼ限られていたため、平地からの報告は意外でした。そこで、市の担当者さんの理解と協力を得て、それらの報告をされた調査員さんに私から電話をさせていただきました。何ヶ月も前の状況を突然お聞きするのは恐縮でしたが、報告いただいた種類に確信をお持ちの方はおられず、写真や標本も無いようでした。それで、私の判断で平地におけるイナゴモドキとハネナガフキバッタの報告を削除させていただきました。せっかくのご報告であり、また今年度の報告総数は例年を下回る中での削除なので、たいへん心苦しくありましたが、少しでも正確さを目指す観点から何卒ご容赦願います。

以上のことから察するに、種類の判別に悩んで報告をためらわれた方もおられたでしょう。このことが今年度の報告数の少なさの一因かもしれません。調査対象の種類を事前にもっと減らしておけば、むしろ報告数が増えたのでは、と後悔しています。

調査に参加された方々が、今後も季節を追ってバッタの観察を継続され、生きものとの出会いを楽しみながら、身近な野生生物と自然環境に一層興味を深められることを期待いたします。

市民調査員さんからの感想など

バッタ調査に参加しての感想やお写真をたくさんいただきましたので一部をご紹介します。

草地のわりにバッタがいない。飛ばず、おとなしい。

脱皮したばかりで近くに抜け殻があった。

ツチイナゴ（幼虫）。幼虫は識別が難しいですが、目の下に涙のような黒い模様が目立ったのでツチイナゴだと思います。

1匹は捕獲してクルマバッタの特徴である後翅の黄色と黒をはっきり確認できました。残りの2匹は飛んだときに後翅の黄色と黒がかなり濃く見えたものをクルマバッタと判断しました。

ショウリョウバッタ、なぜか京阪の線路を越える歩道橋にいました。近くに植え込み等もあり、そこから飛んできたのかもしれませんが。

真野川（大宮橋）の所に小さな小さなバッタがいました。

空き地の草地、トノサマバッタたくさんいました。

たくさんのコオロギの赤ちゃんやキリギリスと一緒にトノサマバッタとショウリョウバッタがいました。他に見つけたのはキリギリスでした。

オンブバッタ、ショウリョウバッタと思って捕まえてかごに入れたら2組おんぶしました。オンブバッタでした。

オンブバッタ、大きいバッタは黄土色と上に乗っている小さい方は緑色ですぐに居なくなりました。

赤ちゃんみたいなのがたくさん跳ねていた。久しく見ていなかったなので、初めて見てこんなちっちゃなバッタがいるんだと思ってしばらく見とれていた。すごくせわしなくとんでいた。早く大きくなあれ。

ショウリョウバッタ。小さなのがピョンピョン飛んでいてかわいかった。

ショウリョウバッタ、見つけたら” やったね” と思った。

オンブされているバッタを発見。しばらくじっとしていたので見ていた。

ショウリョウバッタ。色がきれい。

ショウリョウバッタは、庭の草の中にいた。すぐに飛んで逃げた。以降ショウリョウバッタはよく見ましたが、他のバッタは見ませんでした。

オンブバッタ、庭のシソの葉の上に乗っていた。周りのシソは穴だらけ。

キリギリス、コオロギもいた。40m×80m草地。今回の観察場所の3つの内でもっとも多くいた。ぴょんぴょん〜といった感じ。

モンシロチョウやシジミは飛んでいたが、バッタ類は見かけなかった。

トノサマバッタ、自分の服に飛んできた。そのまま目をキョロキョロ。動こうとしないので”どこにもいかないの？”としゃべりました。

オンブバッタ、バジル畑でピョーンと飛ぶ。早い飛行で驚いた。

以前重複を避けるため同じ場所での観察方法を控えるというように書いたかもしれませんが、捕食されて減ったり、新たに他の場所から飛んできたりで入れ替わりがあるだろうと考え、これからは同一の観察地でも報告することにします。

イボバッタ、玄関を掃除していて土色の小さなバッタを見つけたが、次の瞬間もう飛んでいて姿が見えず、探してもいなかった。元気の良いバッタ。

クルマバッタ、初めてのバッタを見つけワクワク、元気！

イボバッタ、台風一過、庭掃除をしていて土色のバッタを見つけ、よく観察できるように虫かごに入れようと思ったが失敗。オス、メス判断できず。時期によりバッタの種類も変化していくのだなと思った。カマキリはいつも見かけますが…。

ショウリョウバッタ、自宅の庭ではカマキリやキリギリスはいたが、バッタ類が見つからなかった。今日ようやく1匹ショウリョウバッタがいた。

2cmくらいのかわいいショウリョウバッタだった。

オンブバッタ（みどり色）、南向きの芝生の上、プランターや鉢が並べてあるところ。じっとしていた。同じものか判らないがよく見かける。

トノサマバッタ、孫（小1）2人を連れて行き、いきなりアミで孫が捕まえました。1匹は大きく孤を描いて飛び逃げてしまった。他にはいなかった。

ショウリョウバッタ（7～8 cm）、南と西をブロック塀で囲まれたプランターや鉢の置いてあるコスモスの茂みでじっとしていた。時々目にするのでそのあたりに住んでいると思われる。

コバネイナゴ、50年位前は無数にいて一時見なくなったが、ここ数年前から見掛けるようになった。環境こだわり（減農薬）の米を作っているためか。

ツチイナゴ、8月ごろに見たものよりは成長していましたが、まだ全て幼虫でした。結局、今回の調査で成虫は見つけれませんでした。

イボバッタ。びわ湖の近く、花がたくさん植えてある場所でたくさん見かけました。

ショウリョウバッタ、灰色のバッタもいました。近くで見られなかったので種類は分からなかったけれどイボバッタかな？と思いました。

全体的に感じたのは、いざ探してみると思ったより数が少なかったということ。

丸い空き地にオンブバッタがいっぱいいました。オンブバッタ以外のバッタはいませんでした。

イナゴ、例年より少なかった。毎年神田の稲刈りにおいてイナゴを捕まえ佃煮にして食べている（食育のために）。今年は24匹捕獲。佃煮にして食べました！！虫を食べることに抵抗のないようにと。自分で捕まえ、自分で料理して食べるという経験を子どものうちに。

トノサマバッタ。校庭の草むらで見つける。逃がしたときに3階建ての校舎を飛び越えて行ったのでびっくりした。

オンブバッタ（オンブしていない）を発見、シソの葉、ミニバラの葉 etc. 我が家のプランターのシソの葉はほとんど食べられていました。

歩くたびに飛び出すバッタのある意味” ひょうきんさ” に草の中を歩くのが楽しくなります。

暑い日差しの中で、他の虫はほとんど見かけなかったが、ショウリョウバッタは相当見かけた。

休耕田の草刈。今朝から気温が下がり、ショウリョウバッタはもういませんでした。散発的にイナゴを目撃。この田は野生植物の宝庫です。子どもの頃は家に鶏を飼っていて、サイダーの空ガラス瓶にいっぱい捕まえていたのを覚えています。バッタ類も少なくなりました。カマキリも少なく、昔の農作業（トラクター）でよく見かけた物も随分少なくなりました。

オンブバッタ。玄関のプランタ（マリーゴールド）に、あまり動かずにずっととまっていたましたが、本日が目撃した最終日でした。翌日マリーゴールドの枯れかかりを契機にして、撤去しました。

田んぼの稲刈中、アスファルト舗装の道路上に、トノサマバッタよりやや小さく彩やかなバッタを発見。

ショウリョウバッタオス5、メス2、休耕田の草刈、オスは”キチキチ”と音をたてて、約2.5m飛びました。メスは大きく8cmくらいあり、草刈の刃から逃げるべく、約50cm飛翔。

トノサマバッタ（褐色オス）、檀家寺院の盆全清掃作業のとき低い草地で発見。緑のメスを探したが未発見。

オンブバッタ、自宅の庭マリーゴールドを植えているプランターに一匹いました（小さい方）。

トノサマバッタ褐色のオス、刈取後の草燃やしに行ったとき発見。久しぶりに見ました。

オンブバッタ、自宅近くの菊、約30本の草引きのとき「下が大きく、上が小さい」セットがいました。

休耕田の草刈。平均15～30cmのイネ科、オヒシバ、ヨモギ等の植物、刈り取り面積が縮小されるほど、バッタ類がひしめいています。ショウリョウはやや大きく、イナゴはまだ幼虫で1cmありません。

バッタの種類を見分けるのは難しかったです。楽しかったのでまた参加できたらと思っています。ありがとうございました。

ショウリョウバッタ、1匹だけが大きく、もう1匹は非常に小さく、子どものように見えた。

オンブバッタ、臭いの強い草にたくさんいた。大きさは2～4cmのものが多い。大部分が3cm前後。

イボバッタ、灰色でブツブツがあり、暑いところ（コンクリート、レンガ）でもじっとしている。まわりの草（10～20cm）の生えているところにはオンブバッタがいた。シジミチョウがいっぱいいた。

ショウリョウバッタ（緑色）、草木に水やりしている時に飛び出してきた。

調査員さんから頂いたバッタの写真です。特に表情が良かったものを一部ご紹介します。

トノサマバッタ



クルマバッタ



クルマバッタモドキ



イボバッタ



マダラバッタ



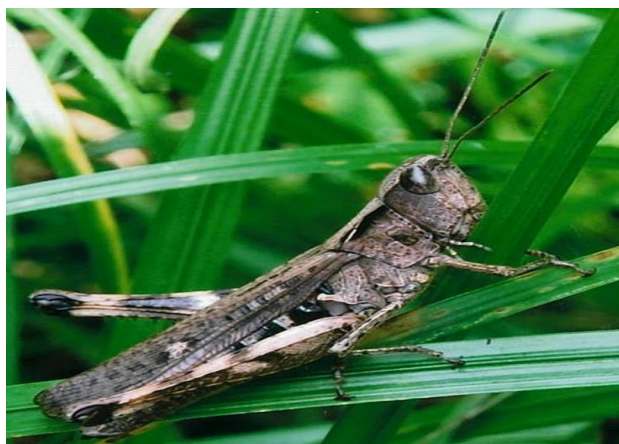
ツマグロバッタ



ヒロバネヒナバッタ（オス）



ヒロバネヒナバッタ（メス）



ショウリョウバッタ



ショウリョウバッタモドキ



ツチイナゴ



コバネイナゴ



短翅型フキバッタ類



オンブバッタ



この他にも、たくさんの写真を送っていただきました。
誠にありがとうございました。